

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (30)



～ 「いい顔・いい声・いい心」があふれる川原小学校 ～

川原小学校 校長 石田美喜子

川原小学校の朝は、子どもたちの元気なあいさつで始まります。登校後、荷物を片付けると校門前に全員が集合し、朝のボランティア活動（校門前の掃き掃除、草花や野菜の世話、運動場の草集めなど）でさわやかな汗を流し、気持ちを整えて一日の学校生活をスタートさせます。現在、児童数は22名。「いい顔・いい声・いい心」を合い言葉に、生き生きと学校生活を送っています。

川原小学校は、石垣島の中央部に位置し、於茂登連山を望む風光明媚な自然環境に囲まれ、肥沃な土地を活かしたパイナップルやサトウキビ等を主とした農業がさかんな地域にあります。1941年（昭和16年）に「大浜国民学校開南分教場」として創立され、学校移転・統合・分離、校名変更等の歴史を刻みながら、地域の教育に対する熱い思いに支えられ、今年創立80周年を迎えました。



2016年からは、地域の特色を生かしたキャリア教育として、総合的な学習の時間に農業生産及び販売活動を中心とした「プロジェクトK」を実践しています。子どもたち（1・2年生はアルバイト）が運営する会社「すくすくまーさん川原っ子農園」は、生産から販売・収支決算まで、年間を通して活動を展開しています。野菜づくりにあたっては、保護者や地域の方に肥料提供や整地作業への協力をいただき、野菜の育て方等を教えてもらいながら、全児童で取り組んでいます。販売活動においては、これまでJAファーマーズマーケット「ゆらていく市場」の協力を得て、「川原マーケット」を開催してきました。コロナ禍の昨年からは、学校の近くに無人販売所を設置し、地域の方に協力していただいています。収益金は、ミャンマーの小学校へ井戸を建設する費用として贈ったり、お世話になっている川原・三和両公民館へ寄付したり、校内で使用する製氷機の購入に充てたりと、「何のために使うか」「何が必要か」子どもたちが話し合って決めています。このような地域の教育資源を活用したキャリア体験は、子どもたちに生命尊重や自然の恵みへの感謝の心、将来の夢を育てています。

また、本校では、子どもたち一人一人のよさを認め合い、夢を応援する「ハッピーフラワー大作戦」や「夢応援プロジェクト」も展開中です。学校行事や季節の行事などの節目に、一人一人のよさや目標・夢に対して、励ましの言葉やメッセージを「見える化」して贈り合い、学校全体で応援しています。

これらの活動は、子どもたちの自己肯定感を育てることを目的とし、石垣市が推進している「勇気づけの教育」にもつながっています。自己肯定感は、認められたり、大切にされたりすることで、学校や家庭、地域の一員であることを学び、一歩前に踏み出す力を与えてくれます。自己肯定感があれば、日々の生活の中で「楽しい」「大丈夫」「やればできる」と思える場面がきっと多くなるはずです。

学校の前にある「すくすく実り畑」には、今年度二期目の野菜が植えられ、ジャガイモやにんじん、タマネギが芽を出し始めました。今朝も子どもたちが雑草をぬき、水やり等の世話をし、年明けの収穫をめ

ざしています。土に触れ、花や野菜を栽培する活動を通して、子どもたちは豊かな体験を積み重ね、一人一人の調和のとれた成長を学校・家庭・地域が手を取り合い、見守りながら応援していきます。

今日も於茂登岳から吹く緑の風を受けて、「いい顔・いい声・いい心」の川原っ子は元気に学校生活を送っています。